

子爵渡邊國武著

哲學子神髓一家言

一名 俳教玄義

東橋居士

念と喚起せんとほるま在るの^不有る其^と
下有るうらして本講述を一面ありて見
ると純粹なる哲学系統とるま相違を^はん
が他の一面あり見れを雄偉莊嚴なる一の
宗教下有る
夫の獨逸のヘーゲルの嘗て同一やうな考
と起して其所謂三断論法的辨證法を以て
東西古今の哲学宗教と一大系統の中を統
一せんと試みて結局終りたり
のを決して各哲学各宗教の間を^はりて互相
の關係聯絡が^はん為め^もは^んく又各自の
位置方面の定りて居らぬが^はん為め^もは^んく
して^{所謂}元来三断論法なる^のの^が元来不備不
完全なる^のの^が正断及断合断と
言へる一定不變の順序を拘泥して之を以
て活動變轉極りせり人類思想の進化と歴
史發展の進行とを拘束せんと欲しとる率
強附會の過失の爲め下有ると言ひねをな
らぬ其^れ等の^れ誤りを本講述より^はりて後追々詳
しく説明れる積りて有るが序下有るのり

只一言して置く

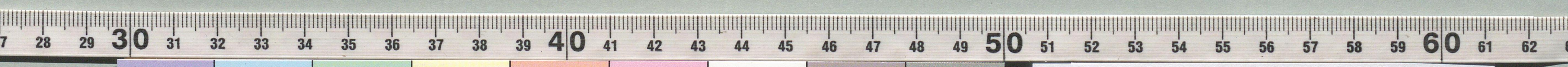
又本講述は佛教玄義と言ふ一名を付し
のそ本講述は於る研究檢査の結果は今の
り二十有餘年前は印度の釈迦牟尼佛陀が
首唱せらるる所の併教中の因縁生の哲理
自ら妙合一致せる所あり有るうら下有る志
ありながら其講述の方法も其説明の順序
も是まで在り来りの併教をも全然異り
居るうらわすと本講述の本名とを哲学神
髓一家言と題して一家創設の哲学新系統

を有るとして其後の當否を講述者自ら之
を任せて決して其辨護の爲めは釈迦牟尼
佛陀の聖権などを假らぬと言ふこと
明らかにして而して後其結果あり見ても
本講述は従前印度的詩的因明的なる佛教
の中は深く隠して居る玄妙の義趣と世
界的論理的經驗的研究換察して其を
發揮し下有ると言ふ意味を別は併教
玄義と言ふ一名を付して置く下有るう
ら或は本講述と以て一家創設の哲学新系

統で有るとはなり或々又俳教の主義と究
揮しつゝの下有るともなりつしと讀者
が鑑定の自由は一任れるの下有る
而して本講述に於る哲学系統の組織を一
の哲学の親義の中に包含れる所の四種の
疑問に答へる為の哲学講究の部門と四
種に分ち各部門の哲学と各四種研究の方
うら研究し各四種研究の方面と各四種檢
査的要素は孰く検査し即ち一の哲学の親
義に基つき四種の部門の哲学と十二種の
研究の方面と六十四種の検査的要素と本
末細目合して八十五種の條款に因り此全
宇宙一切万有の實在的原理と此實在的原
理の全宇宙一切万有と表現する所の力用
と其表現せらるゝ所の現象の状態と此實
在的原理の全宇宙一切万有の生存活動と
統紀をなす所の規範とと研究検査して其研
究検査の過程中に於る従前東西古今の問
は起るゝ哲学各系統の原理を由る起る
所の理法契機も其互加の關係聯絡し又其

哲学の神髓講述大意

余と今茲に哲学の神髓講述の本題に入らん
 系統と主観的の各章定理と掲げ諸事と付
 し之と講述するに先んじて其研究の目的
 の在る所と其系統組織の要領とと概括的豫
 測的の一言して置くのと便むるに又必要と
 考ふるに於てさやうに述べるに可なり
 本講述に於て研究の目的を此全宇宙一切万
 有の實在的原理と歸納的の演繹的の現象上
 らる規範より研究の模範として其研究の模範

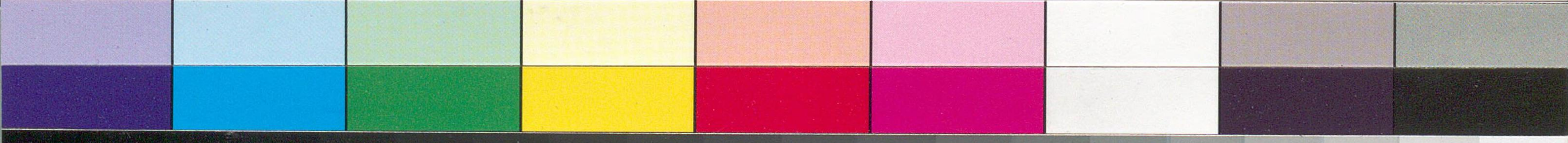


命の思想を備
備し終る迄
辨の思辨を
終る迄
終る迄
終る迄
終る迄
終る迄

的 一面のこは偏倚偏倚して各他各他の一方面の偏
研究を懈りたる所ありつゝ其初めは失敗の後より
の存するあり本稿述ぶ所の思辨的の両方
験の両方面より公平に研究するを得る下あり
其れ等のありと尚本稿述ぶ所の言はるべき
るべきこと今序ふより一言して置くに可き
第二に本稿述ぶ所の哲学系統組織の要領は
随分複雑なりとの不あり若し詳細に之を講
述するも十の率方体を概を以て四節に下
無限の方面要素と包含して居るが今茲

東洋思想

其大體をうらと後述しとる本稿述の上の
り數つて見ても一の哲学の意義の中は哲学
本分の四種の職掌を包含し其四種の職掌の
らして四種の部門的哲学の起る四種の部門
的哲学と各自の研究の四種方面即ち四種
の部門的哲学と合して都合十二種の研究的
方面を包含し其十六種の研究的方面と各自
の換算的の四種要素即ち十六種の研究的方面
と合して都合二十四種の換算的要素を包含
し其の哲学の意義と四種の部門的哲学と十



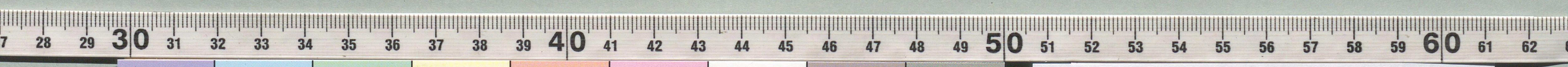
六種の研究的方面より十四種の検査而要素
と本末総目合して八十五種の條款を就て研
究し検査しよりその下有るもの其の實を
うむる有るの其本末個目の聯絡を直覺し
るもの今茲に本哲学全系統圖解と掲げ
諸君の此圖解を引合せて又本講述を讀み
此圖解と照合せるべきもの便利不
有ると考ふるべきなり

本哲学全系統圖解

六. 哲学

東
林
石
堂

そこで此本哲学全系統圖解の其聯絡と正
して列挙しその所の八十五種の條款を對する
一々の道理を本講述に入りて之を講述せる
の下有るが本哲学系統下の一と四に分ち四
と十六に分ち十六と二十四に分ち又二十
四と十六の合し十六と四の合し四と一の合
すると言ふやうに終始四分法と又四分法と
と言ふ可なり方式と以て其研究検査と進行
して居るの偶々なる様子を為して述べると
く又故にそのさうなる一と四と十六と四と一と

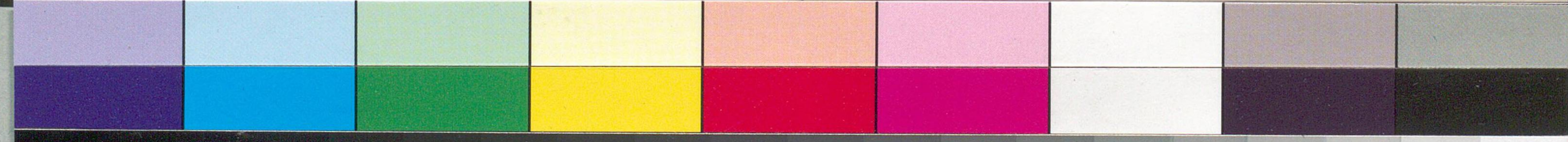
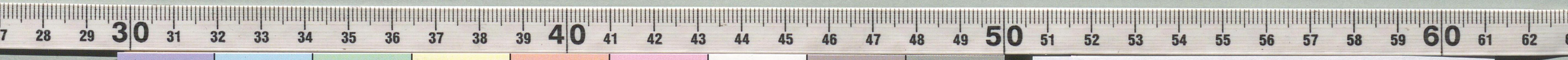


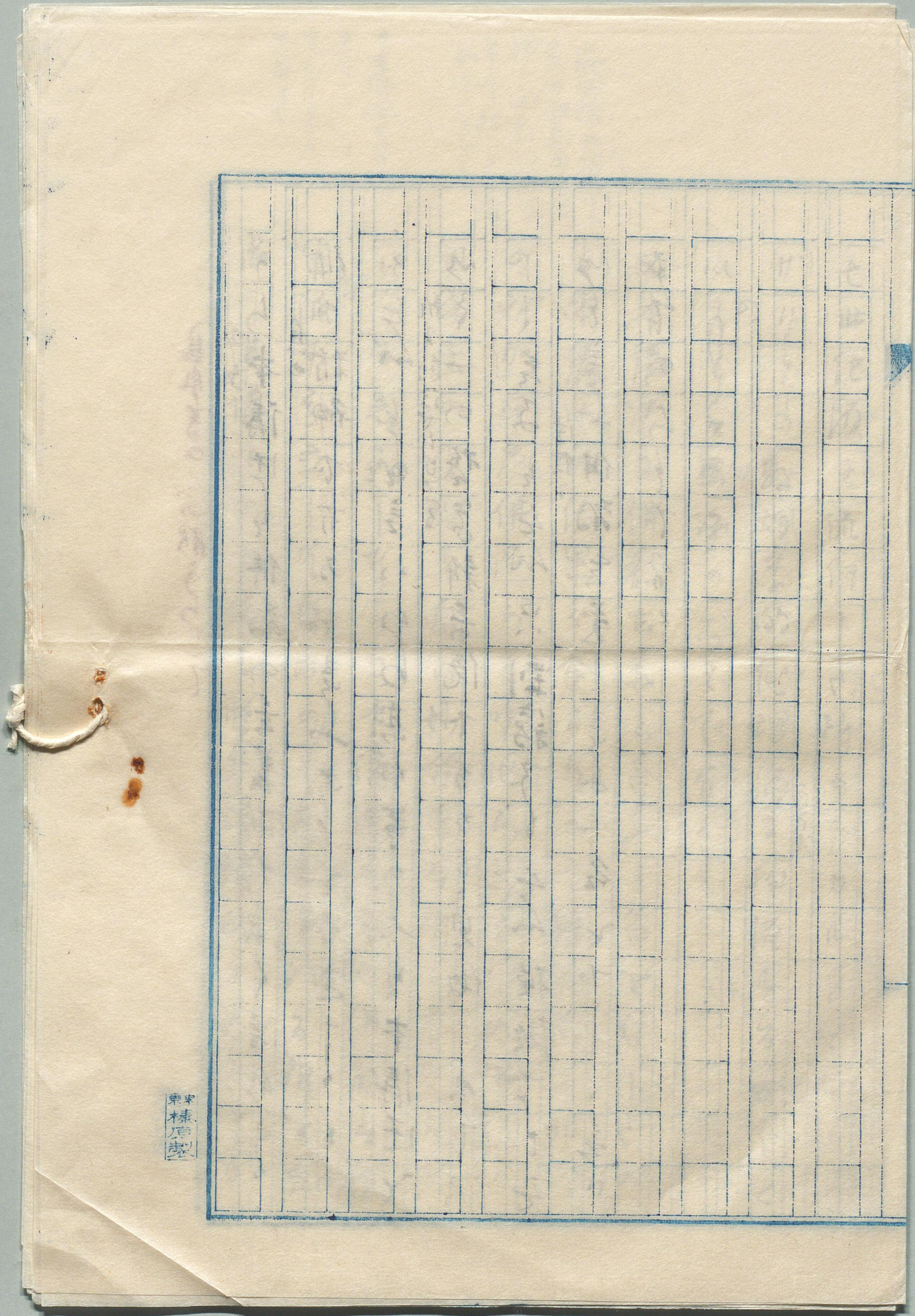
七世他派の流行し、所のテカルトマセ
ガリとの教理學的他理論^のを扱^るは、
以^のりて無^の論のさとして有る
又本講述の佛敎意義と言ふ一名と付して
と本講述の結果が今より二千餘年あり
の初加年尼佛陀の著唱せらるる所の佛敎の
因縁生の整理と自ら妙合する所あり
に有る志ありなり本講述は今の佛敎と各
宗派の分ちして各々の其主張する所と
は、其講述の方法も歴々煩瑣的なる所あり

東洋學

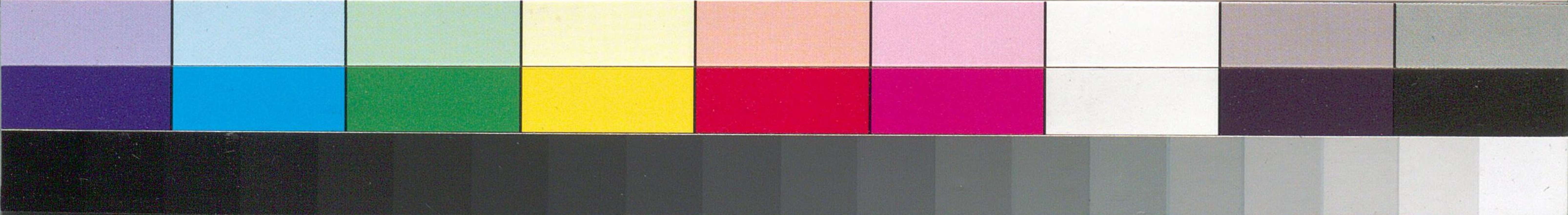
其本意の人の眼よりして

うら本講述は佛敎の意義即ち深く隠れ
所の精神^{直の}下有ると言ふことと吾定し、その
か^のを以て言ひ、其の等の人々本講述と
以て^{新の}一の哲學新系統下有りと見做され、
して^の差を以て只割裂するも、その模倣して
以て^の言ひ、佛敎意義と言ふ一名と下して、
そののあと下り





東
棟
屋
製



国立国会図書館 渡辺国武関係文書(その2) 1087

第一、此全書中、
切万百の實在的理
理と研究、第一、
此實在的理、
に因る

哲学神髓一家言講述要旨

余と本講述の本題に入、順序を追ふ系

統的、定理と立の證明と付、了之と講述

在る、先づちの豫備的豫測的、其要旨と

告白、て置くの、便宜と有、又必要下

し有ると考へる、ら右様とまゐる

本講述の目的、を從前東西古今の間、起り

とる、哲学各系統の、於る原理の、起る所

の理法契機と、各系統の、關係

絡と貫通、各自の位置方面と、立定、今日

△其意に有るよりして
本講述と一面より
見れば拍子に有る
けりとも他の一面の
りえれども又應可い
宗教であるよりある

よて東西古今の同子有るに有らぬる哲学
各系統の原理と統一して完全無缺な
る一大系統と為して以て宇宙の大観と極め
以て哲学の真精神真骨髄を發揮して以て宇
宙觀人生觀宗教觀等子於る千古未決の一
大疑問と解決せしめんとするに在るの事有る
又本講述は佛教玄義と言ふ一名を付して
のと本講述に於る研究検査の結果は今あら
二千餘年前の印度の釈迦牟尼佛陀の首唱
せらるる所の佛教中の因縁生の哲学と自の妙

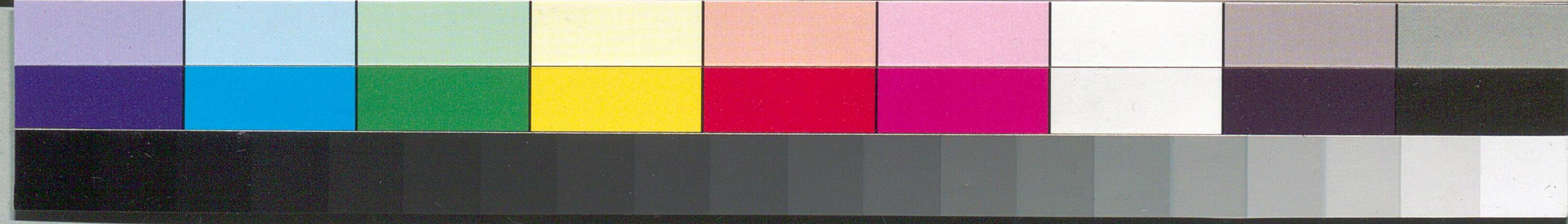
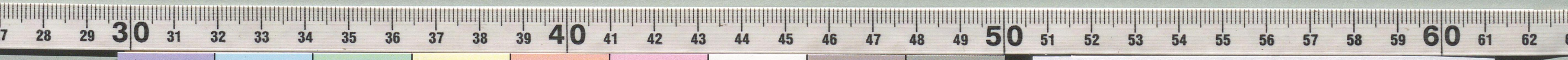
東林堂製

合一致せる所も有るより不有るまで一なる
ら其研究検査の方法も其講述説明の順序
し余り是も下有り来りの佛教を全くと異
て居るよりわが本名とて哲学神髓一
家言と題して一家創設の哲学新系統で有
るより其後の當名を講述者自ら之に任
了決して釈迦牟尼佛陀の聖推なりと依
頼せぬと言ふこと明らかにして而して
後別は佛教玄義と言ふ一名を付して從前
印度的符的因明的なる佛教中の深く隱

たる玄妙の義趣と世界的經驗的論理的の
研究檢覈 其の義趣 と言ふ意味とホノ
メカシ 置か の不有るを本講述と
創設の哲学新系統で有るとする 以て 一家
玄義と突揮 し の不有るとするもソレを
讀者鑑定 の 自由は一任する 不有る
而して本講述に於る哲学系統の組織と一
の哲学の秋義の中 に 包含する所の四種の
疑問 の 答を為め に 哲学と四種 の ち各
哲学の中 に 各四種研究的方面 を 示す

東林堂製

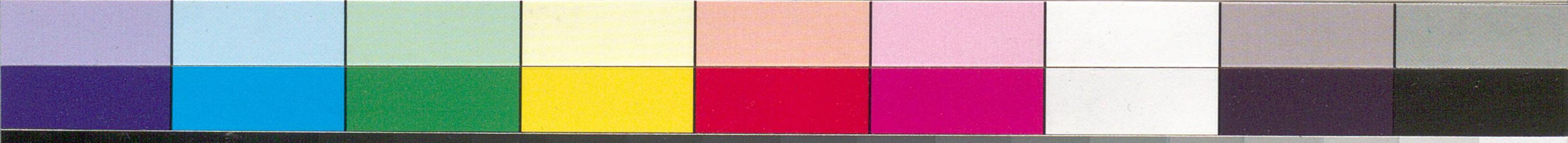
研究し各四種研究的方面と各四種換覈的
要素 の 乾 き と の 換覈 の 一 の 哲学の秋義 の
基礎 の 四種 の 哲学 と 十六種 の 研究的
方面 と 六十四種 の 換覈的要素 と 本末總目
合して八條 の 種の條款 を 因 り 此全宇宙一
切万有の實在的原理 と 此實在的原理 の
全宇宙一切万有 の 表現 を する所の力用 と 其
表現 せ ら る 所の現象 の 状態 と 此實在的
原理 の 全宇宙一切万有 の 生存活動 と 統紀
は る 所の規範 と 研究 の 換覈 し 其研究



檢覈の過程中に於て従前東西古今の同
起りたる所の哲学各系統の原理の
起る所の理法契機も互相の關係脈絡も
其各自の位置方面も自ら明瞭に相釋し
是も又東西古今の同有りと有らざる哲
学各系統を以て此一大系統の中の一契機一
要素一要素たるを區別し明瞭に講述し
明瞭の不可有る本講述の緒論本論結備合
して二十八章の中は概略なるものと講
述説明し

東洋製

そこを本講述に於る哲学系統の組織と一
と四のち四と十六のち四と十六と一
十四のち四又六と十四と十六と合し十
と四の合し四と一の合し言ふ様は終
始四分法と四分法との言ふ様は四階級
但し四分法の二つはなりて居る偶然子左
様なりしものも又故を左様とい
ふ所のなりし此全宇宙一切万有の實在
的原理の自己中に具有一圓自己の表
現する所の力用の四種方面必和し然ら



定して相待的なり宇宙の三と肯定れる所
の無神論と第三に相待なり神論相待なり
宇宙が俱に肯定れる所の有神論と第四に
絶対的なり神と相待なり宇宙と俱に否定
し神と宇宙として宇宙と神なりと論断
する所の汎神論との四種あり如何
なり宗教的問題をも決して此四種の根本
的之脚地の外に立つべしと併せぬの三存
らば決して之と減して三種と爲れしと
し又之と増して五種と爲れしと
神論

東洋書製

の下の
ぬ斯様なる例證あり考へて見れば
根的存在して居る所の甲乙兩項は或は
或は甲項の否と肯定して乙項の否と肯定し或
は甲項と否定して乙項の否と肯定し或は
甲乙兩項俱に肯定し或は甲乙兩項俱に否
定しと言ふ四種の推断を此宇宙上に於
て心的現象と物的現象と又心的現象
と物的現象との關係と同一なる一切の手
物一切の事理論断の根本的契機根本的力
素根極的要素普遍的方面を有ると言ふは

この知るべきの有る
本講述に於る哲学系統の組織と前子と言
やする如く一の哲学の個義と四種の哲学
と十二種の研究的方面と六十四種の換數
的要素と至一相關關了其組織の隨分初
雅多端なり様々見く其秩序を甚小嚴
正精確なり一の不有る少く突発の様
をも有る本講述の本題に入る前本哲
学全系統圖解と掲表して後有の圖解と見
る本講述と後と本講述と後と圖解と引

東洋書院

を合せり、の便利供するの宜しむと考へる
ありた様子を
本哲学全系統圖解
是の則本哲学全系統個々の圖解下有る之
と一の家屋建築の比を以て一枚の大盤石
の上の一大家屋と建築して其第一層を四
室よりありて四大食堂と中一四種哲学其
第二層を之と十二室よりありて會談執務
の場所とありて十六種研究的方面其第三層

ら之と二十四の寢室はあちち安眠静閑
の場所と云ふ二十四種模範的要素とありたる様を
いふ不有る

又本講述の各章を其後ゆと定理と證ゆ

との二種をのち各章の始に掲げて有る

所の定理と言ふのを余ら自ら等と據り

之案上本抄子系統の大明といふ不有る合して二十八章僅々教

べーデより足らぬ位なる短文下有る此定

理の次は掲げ有る所の證ゆと言ふのを

其理由と證ゆゆを為めし思ひこし考へ

東林堂製

しと所と曰漸次て書生等々連記させとの
不有るらえらる換てし積りて有る

の魯魚烏焉馬の混みとテニテハ有るの是

之と所全かせんを申すれぬの不有る

尚序に善附加して一言して置くのを

講述に於る哲学研究の方法の事下有る從

前の哲字各系統と純理的な方法と経

験的なる方法との分けて居り何れの哲

学系統と何れと云ふの一方に偏して居らぬ

を以ての認識論も認識の起源も先天

